

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

「地域医療」について

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、首都圏と地域の広域連携を図るとともに、それぞれの地域医療の発展についても積極的に取り組んでいます。本号では、その取り組みについて詳しくご紹介いたします。

岩手医科大学 腫瘍内科学科 教授 伊藤 薫樹

地域との教育連携と今後の取り組み

岩手県は全国で2番目に広い県であり、各医療機関がカバーすべき医療圏も広大です。医療資源は盛岡に集中しており、盛岡以外は医師不足傾向にあります。各医療圏には基幹病院となるべき県立病院が配置されており、本学とこれらの県立病院との教育連携は県全体のがん医療の質の向上に必要不可欠です。このような背景のもと、これまでのがんプロ事業として、本学と各県立病院間をTV会議システムで結び、定期的にキャンサーボードミーティングや緩和ケアカンファレンスなどの双方向的な教育連携を行ってきました。医師同士のディスカッションだけではなく、看護師や薬剤師にもそれぞれの立場から発表を行う多職種参加型カンファレンスとなっており、チーム医療の質の向上が期待できます。また、がんプロの啓発活動として、患者自らがチーム医療の一員であることを知ってもらうことを目的に市民公開講座を行いました。患者中心のがん医療を行うためにはどのような人材が必要かについて、市民との活発な意見交換を行いました。さらに、現在注目されている「がん患者の就労」に関する連携大学ICT特別講義を開催しました。特に県内のがんサバイバーにも参加していただき、県全体としての今後の取り組みや課題が議論され、がんプロ教育の必要性が共有されました。また、県内の小学生や高校生を対象にがん教育活動を行っています。講義やシミュレーターを用いた体験型学習などを通じて多角的にがんについて知ってもらう機会を提供しております。

新たな取り組みとして、地域における化学療法への質の向上を図るべく、いくつかの県立病院とのピアレビューも始めました。この活動を通じて各地域における問題点を抽出し、今後、がんプロによる教育連携を進めていきたいと考えております。一方で、このがんプロ事業のアウトカムとして、上述したような教育連携によるがん専門医療人の育成だけではなく、最終的に患者へのがん医療の質の向上にいか

にこのがんプロをコミットさせていくかが重要な課題として残っています。特に本学では、がんプロ事業の一つであるインテンシブコース「先導的がん臨床研究に精通した医療人育成」を通じて多くの修了生を輩出してきました。今後は、この人材を登用して地域を含めた臨床研究を実施することにより地域がん医療の質の向上を図り、患者への直接的な貢献に繋がることを期待しています。





「地域医療」について

島根大学 医学部 内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 教授 磯部 威

島根県におけるがんの地域医療の現状とがんプロの地域貢献について

島根県は、がん薬物療法専門医とがん診療連携拠点病院が県東部に偏在化しています。そのため、県央から県西部におけるがん医療の均てん化が急務となっています。そこで、本がんプロでは、「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を鳥取大学と共同で設置しました。プロジェクトの目的は ①ICTの活用、②がん医療の均てん化、③がん医療従事者の生涯教育の実施 の3点に要約され、地域支援型のがん診療連携を指向しています(図1)。

「ICTの活用」に関しては、山陰地区は東西の距離が約160kmと長く、公共の高速輸送機関がなく、高速道路を含めた交通網が発達していません。そこで、医療従事者が地元にながらにして情報を収集、共有するために、島根大学医学部にテレビ会議システムの拠点を置き、県内の離島を含む31施設とICT連携しました。このシステムの特徴は、大学で行う講義や、講演会を演者のスライド上のポインターを含めて配信する機能を有しているため、遠隔教育が可能であること、参加できない場合には、講義録画が可能であるため後日CD-ROMとして配布し、個人あるいは院内のグループでパソコンを用いて再生閲覧が可能で、また、face to faceのテレビ会議を行うことも可能です。がんプロ連携7大学から配信される有益ながんに関するセミナーも受講可能です。

「がん医療の均てん化」については、がん診療連携拠点病院ではない地域の総合病院に大学からがん薬物療法専門医を派遣し、外来化学療法の整備と腫瘍専門外来を開設し、地域のがん患者が通院治療を行う体制を作りました。一方、地域病院で働くがん薬物療法専門医を中心に看護師、薬剤師と大学病院間のがん診療連携を構築し、がんの診断、病期分類、初期治療導入を大学で行い、以後の治療は地域病院で継続し、大学と地域病院間で定期的なテレビカンファレンスを行っています。

「がん医療従事者の生涯教育」として、本コースは1年間のプログラムで所定の講義を受講修了した方には「山陰がん認定医療スタッフ認定証」が授与されます。山陰地区におけるネットワーク作りと、都会と地方がICTで容易に連携できることで、病診連携、人材交流、医療従事者の再教育、地域がん診療への貢献が着実に進んでいます。

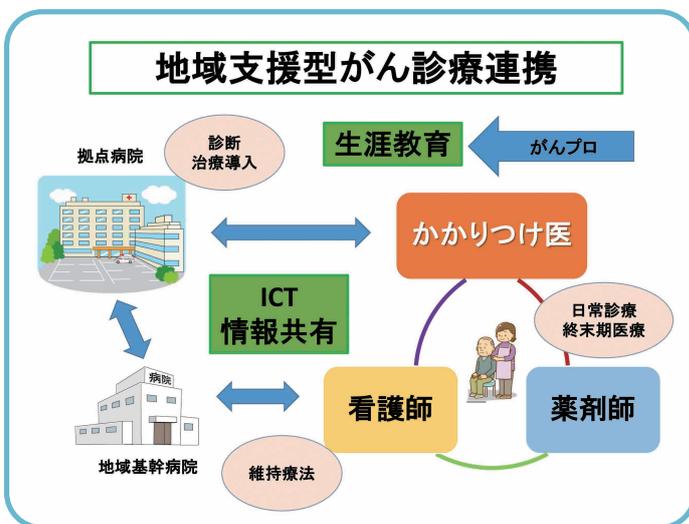


図1

は「山陰がん認定医療スタッフ認定証」が授与されます。山陰地区におけるネットワーク作りと、都会と地方がICTで容易に連携できることで、病診連携、人材交流、医療従事者の再教育、地域がん診療への貢献が着実に進んでいます。





鳥取大学 医学部附属病院がんセンター センター長 教授 辻谷 俊一

鳥取県における地域連携の現状と課題

当院は鳥取県のがん診療連携拠点病院（以下拠点病院）として県のがん医療のレベルアップを図るため、地域における様々な取り組みを行っています。拠点病院が順に行う「鳥取県がんフォーラム」や、当院が独自で行う「公開講座」で医療者や市民へのがん情報の普及啓発に努め、「緩和ケア研修会」に県内の多くの医療者が参加できるように各拠点病院の開催時期を調整します。拠点病院の間でICTを活用し、鳥取大学の講師による「がんセミナー」を毎月、院外の講師による「公開セミナー」を年数回開催し、最新のがん診療情報を共有します。これらの情報発信は今後、参加者数の増加と議論の深化を図ることが課題です。また、医師会と協議しながら5大がんの県内共通のクリニカルパス（がんパス）を作成し、「わたしのカルテ」という診療記録冊子を使用して診療所との連携を促進しています。しかし、県内は依然として患者の病院指向が強く、がんパスが十分に活用されていないのが実情で、拠点病院の医師が積極的に地域と連携する態度を涵養する必要があります。「中海緩和ケア研究会」では年2回の学術集会と講演会を行い、鳥取県・島根県をまたぐ地域で拠点病院に緩和ケア病棟、診療所、訪問看護、介護施設、薬局などのネットワークを作り、緩和ケアの質の向上や顔の見える連携を推進しています。この活動は始まったばかりですが、山陰の地域連携を刷新する力になることを期待しています。また、県内では病理医や放射線診断医・治療医が不足しており、医師の派遣やICTの活用によるがん診断を通して病院診療の援助を行っています。



今後の目標は、鳥取県がん診療連携協議会の「作業部会」を充実させ、地域連携や相談支援の役割をより高度なものにして、患者・家族をさらに広く深く支える地域医療ネットワークを構築することです。また、拠点病院の「院内がんセンター」の推進を図りながら、拠点病院の間で「合同がんセンター」を定期的で開催し、そこにも緩和ケア病棟、在宅診療所、訪問看護ステーション、薬局などが参加する仕組みを作りたいと考えています。そのうえで、多くの施設が参加して標準治療と緩和医療が協働する体制を作り、そこで様々な臨床試験を実施し、将来的に患者・家族の満足できるがん医療の実現を目指したいところです。

参加費
無料

お知らせ がん教育講演会を開催いたします

がん教育を進めるにあたって

学校教育全体の中で「がん教育」を推進することにより、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深めるため、また今後のがん教育の在り方について検討すべく、講演会を開催いたします。小学校・中学校・高等学校の教職員・保護者及び教育関係者をはじめがん教育に関心のある方々のご参加をお待ちしています。

日時 10月21日(水) 18時～20時

会場 順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス センチュリータワー南10階

申し込み

参加ご希望の方は、**10月13日(火)**までに「お名前」「ご連絡先」「メールアドレス」をご記入いただき、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

■ FAXによる申込み

必要事項をご記入の上、
FAX: **03-3813-3622** にお送りください。

■ E-mailによる申込み

必要事項をご記入の上、
E-mail: **ganpro@juntendo.ac.jp** にお送りください。

主催 順天堂大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
先導的がん医療開発研究センター
<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>



1 開会挨拶

順天堂大学大学院医学研究科 新井 一 研究科長

2 基調講演

—— 講演 1 ——
順天堂大学大学院医学研究科 臨床腫瘍学 加藤 俊介 教授
「がんの基礎知識とがん教育の現状」



—— 講演 2 ——
順天堂大学大学院医学研究科 分子病理病態学 樋野 興夫 教授
「今後のがん教育の在り方」



3 Open Discussion

4 閉会挨拶

順天堂大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 高橋 和久 教授



報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **講演会(岩手医科大学)「乳がん手術のエビデンスと実践」**
講師：順天堂大学 乳腺・内分泌外科学 齊藤 光江 教授 他
2015年7月24日(金) 18:00～20:00 ICT接続により連携大学に配信
- **研究会(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属病院 中海緩和ケア研究会」**
講師：博愛病院 角 賢一 院長 他 2015年7月26日(日) 13:00～16:00
- **講演会(岩手医科大学)「消化管がんの最新治療と将来の展望～内科的・外科的治療および新規医療機器の開発～」**
講師：開運橋消化器内科クリニック院長 岩手医大非常勤講師 遠藤 昌樹 先生 2015年7月29日(水) 15:00～17:50
- **国際シンポジウム(岩手医科大学)**
「イメージガイド下がん診断・治療と医用ロボットの展望」～日本に於けるがん治療への応用～
講師：東京女子医科大学 先端生命医学研究所 先端工学外科学分野 吉光 喜太郎 特任助教 他
2015年8月6日(木) 15:30～17:30
- **セミナー(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属がんセミナー」**
講師：鳥取大学医学部附属病院 第二内科 大山 賢治 助教 他 2015年8月6日(木) 18:15～20:00
- **セミナー(順天堂大学)「Multidisciplinary Research Projects at the Department of Translational Molecular Pathology of MD Anderson Cancer Center」**
講師：MD Anderson Cancer Center 藤本 淳也 Assistant Professor 2015年8月11日(火) 10:30～11:30
- **講演会(岩手医科大学)「婦人科がん治療における腹腔鏡手術のあり方と展望」**
講師：鳥取大学器官制御外科学講座 生殖機能医学分野(産科婦人科学) 出浦 伊万里 助教 他
2015年9月2日(水) 16:00～18:00 ICT接続により連携大学に配信
- **セミナー(岩手医科大学)「がん臨床試験の実際～CRCおよびParamedicalの役割とプロトコール作成の実際～」**
講師：国立がん研究センター研究支援センター研究推進部/JCOGデータセンター 福田 治彦 センター長
2015年9月18日(金) 18:00～20:30

今後のスケジュール

詳細はHPに随時掲載します

- **ICT特別講義(岩手医科大学)**
「こどもの・自らのがんを、子どもにどう伝えるべきか? - CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)の役割を探る -」
講師：聖路加国際病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 三浦 絵莉子 先生
2015年10月2日(金) 18:00～19:40 岩手医科大学循環器医療センター9階第2講義室
- **研究シンポジウム(順天堂大学)「進路の一つとしての海外留学」**
講師：MD Anderson Cancer center 山口 浩史 Assistant Professor 他
2015年10月14日(水) 13:00～16:00 順天堂大学センチュリータワー北棟4階405・406教室
- **公開講座(東京理科大学)「第31回 薬学講座」** 講師：埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 余宮 きのみ 科長 他
2015年10月17日(土) 10:30～17:00 東京理科大学神楽坂キャンパス1号館17階(記念講堂)
- **特別講義(明治薬科大学)「がん治療の新技術～中性子捕捉療法とドラッグデリバリーの応用」**
講師：明治薬科大学がん先端治療学：アルファ粒子線・免疫治療学 柳衛 宏宣 教授
2015年10月17日(土) 13:00～14:30 明治薬科大学講義棟1階 104講義室
- **講演会(順天堂大学)「がん教育を進めるにあたって」** 講師：順天堂大学 臨床腫瘍学 加藤 俊介 教授 他
2015年10月21日(水) 18:00～20:00 順天堂大学センチュリータワー南10階
- **国際シンポジウム(立教大学)「海外で活躍する医学物理士」**
2015年11月14日(土) 13:00～15:20 立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第1・第2会議室

編集後記

博士課程「腫瘍医学」の中で講義「がん研究の歴史：癌学事始め～山極勝三郎・吉田富三・Knudson～」を終え、成田空港に向かった。Philadelphiaの93歳のKnudson宅を訪問した。遺伝性腎がんラットの原因遺伝子(Tsc2)同定から、ヒト結節性硬化症(TSC)への展開、最近のTSC研究の話題などをdiscussionした。研究者にとっても、生涯の忘れ得ぬ貴重な学びの場であった。近刊「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」(幻冬舎)も捧げた。本当に、温かい昼食の語らいの時となった。人生の尊い思い出となった。まさに、人生は「意識的な良き思い出作りの実践の場」である。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 <http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン